図書だより

No.150
2022.11.30
兵庫県立神戸商業高校
図書館
新着図書紹介

図書館の利用を！

２学期も残り僅か、様々な行事も終わり、残すはあと期末考査といったところでしょうか。考査に向けての自習学習に、また気分転換にぜひ図書館を利用してください。

『ザ・クイーン
―エリザベス女王とイギリスが歩んだ一〇〇年』
デニソン，マシュー【著】

英国と世界の激動の歴史とともに生きた一世紀。スエズ動乱、フォークランド紛争からＥＵ離脱、新型コロナウイルスなどに加え、王室の存続さえ脅かしたダイアナ元妃の事故死、孫夫婦の王室離脱など、そのすべてを乗り越えてきたエリザベス２世の生涯を描くノンフィクション。

『台湾がめざす民主主義　―強権中国への対立軸』
石田　耕一郎【著】

コロナ感染症への迅速な対策、「台湾有事」回避への柔軟な姿勢――。注目度が高まる台湾の透明な行政と市民参加、多様性はいかに形成されたのか。オードリー・タン氏の歩みと重ね台湾の民主主義の姿を中国・香港との緊張関係とともに描く。

『とんこつＱ＆Ａ』　今村　夏子【著】

人間の取り返しのつかない刹那を描いた４篇を収録。待望の最新作品集！

『文にあたる』　牟田　都子【著】

校正者・牟田都子は、今日も校正ゲラをくり返し読み込み、書店や図書館をぐるぐる巡り、丹念に資料と向き合う。１冊の本ができあがるまでに大きな役割を担う校正・校閲の仕事とは？

『ペアレントクラシー　―「親格差時代」の衝撃』
志水　宏吉【著】

現代日本は「ペアレントクラシー」という言葉で形容できるほど、子どもの社会的地位、学歴と保護者の学歴、経済力とに強い相関関係が見られるようになっている。

『声をたどれば』　若松　真平【著】

市井の人々に起きた予想もできないドラマチックな出来事を選りすぐって１冊に。実話だけが持つ、驚きと感動に溢れたストーリー集。家族、友人、そして大事な人にも読ませたくなる一冊。

『フィンランド幸せのメソッド』堀内　都喜子【著】

2018 年から５年連続で「幸福度ランキング世界一」を達成したフィンランド。子育て支援や教育など、立場を問わず全ての国民が平等に、そして幸福に暮らすことを可能にする驚きの仕組みの全貌を紹介。

『レッドゾーン』　夏川　草介【著】

大反響を呼んだ『臨床の砦』続編！コロナ禍の最前線に立つ現役医師が自らの経験をもとに綴った、勇気の物語。

【小論文対策におすすめ２冊】

『文藝春秋オピニオン２０２３年の論点１００』

大学は受験生が今の世の中の出来事にどれくらい関心を寄せていて、どれくらい深く理解しているかを見ている。本書は現代日本を代表する知性が寄稿しているので文章が論理的で長さも 2400 字程度と読みやすい。小論文の問題に出そうな旬のテーマを幅広く網羅しているので最適なテキストとなる。

『現代用語の基礎知識　〈２０２３年版〉』

自由国民社【著】

課題文を読むにあたってわからない言葉がでてきたらこれ。幅広いジャンルから厳選した現代用語の数々。朝日新聞の第一線記者らがニュースのツボをわかりやすく解説。手軽に読めて役にたつ、入試小論文、就職試験、資格試験対策の決定版。

その他の新着図書

時事から学ぶ小論文〈2022〉情報・メディア編―デジタル時代の情報とメディア	朝日新聞社	言語
時事から学ぶ小論文〈2022〉文化・教育編―多様化する文化と教育のこれから	朝日新聞社	言語
時事から学ぶ小論文〈2022〉社会科学編―揺れ動く世界の政治と経済	朝日新聞社	言語
ＡＴＯＭ　世界で一番美しい原子事典	チャロナー，ジャック	物理学
マジックに出会ってぼくは生まれた	涌井　学	演劇
シンクロと自由	村瀬　孝生	福祉
日本国勢図会〈2022／23〉―日本がわかるデータブック	矢野恒太記念会	社会学
まず牛を球とします。	柞刈　湯葉	文学
フリースタイル言語学	川原　繁人	言語
中国共産党の歴史	高橋　伸夫	政治
会話を哲学する―コミュニケーションとマニピュレーション	三木　那由他	言語
空海	松長　有慶	仏教
ＷＥ　ＨＡＶＥ　Ａ　ＤＲＥＡＭ―２０１カ国２０２人の夢×ＳＤＧｓ	WORLD DREAM PROJECT	国際協力
まだ、法学を知らない君へ―未来をひらく１３講	東京大学法学部	法律
海がきこえる	氷室　冴子	文学
予知夢	東野　圭吾	文学
Ｒｅ：ゼロから始める異世界生活〈31〉	長月　達平	文学
ecriture 新人作家・杉浦李奈の推論５・６	松岡　圭祐	文学
十勝ひとりぼっち農園　〈１０〉〈１１〉	横山　裕二	コミック
ヘタリアＷｏｒｌｄ★Ｓｔａｒｓ　〈6〉	日丸屋秀和	コミック

ぶらり選書　２学年　　土田先生

『解きたくなる数学』

「数学と本」となると、「数学に関係する本は、教科書くらいしかないじゃないか！」と思っている人いませんか？

ここで問題。世界のベストセラー第１位は『聖書』ですが、2位はなんでしょう？

答えは、数学の本『原論』だそうです（諸説あります）。紀元前にユークリッドによって書かれたこの本は、長い間教科書として使用されていました。一方で、日本でもベストセラーになった数学の本があります。吉田光由による著作『塵劫記』（江戸時代 1627 年）です。それまでの日本における数学「和算」をまとめ、九九や単位など基本のものから、面積・両替・利息計算・平方根などの専門的な分野までを網羅した専門書でした。当時は経済の発達によって、和算を専門に研究する人だけでなく、市民にも数学的知識は必要となったため、この塵劫記は版を何度も重ねる大ベストセラーとなりました。利息計算が関係するあたり、県商としては見逃せない本です。

『塵劫記』がベストセラーになった理由の１つが、身近なものを題材にした問題や分かりやすい図、説明だったそうですが、現在の数学はみなさんにとって、抽象的で分かりにくいことが多いようです。では『塵劫記』のように、ごくごく身近なものを題材にして、思わず「何これ？どうなっているの？」と思わせる問題ならどうでしょう。それが今回の本『解きたくなる数学』です。あの『ピタゴラスイッチ』を考えた方達が、頭をひねって考えた良問の数々。カラーの絵で、普段の生活でよく見る物を使った問題設定。簡潔かつ分かりやすい解説。何より分かりやすい問題設定で、解きたくなる気持ちをくすぐること間違いなし！

『解きたくなる数学』は今回の寄稿で図書館に寄贈するつもりです。また、昨年度に私の私物の数学の本や、県商数学科推薦の本が図書館に加わっています。秋や冬の夜長に、是非数学の本をお供にしてください。